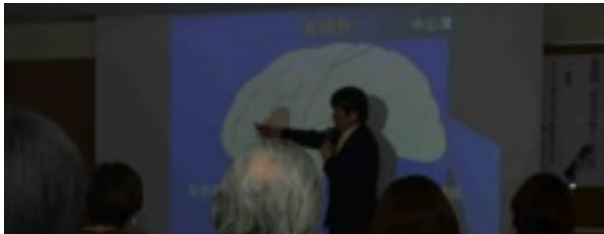


## 口腔ケアシンポジウム

### 「認知症高齢者への食事支援」

平成25年1月23日、本会主催で表題のシンポジウムが開催されました。今回の口腔ケアシンポジウムでは、日本大学摂食機能療法学教授の植田耕一郎先生をお迎えして、認知症高齢者の摂食・嚥下障害や食事支援についての御講演を頂きました。



(スクリーンの前を動き回って、情熱あふれる講演)

歯科医学にとって、「咀嚼」は常に主題であり、「嚥下」にも着目がなされてきました。一方「摂食」は学問体系に組み込まれてこなかった現状があります。しかし、高齢者社会においては看過できない重大なテーマであり、要介護高齢者や認知症高齢者の食事支援は、介護者にとって高齢者の生活の質を左右する大きな関心事です。

ご講演は、自験例も交えながら、脳血管障害に伴う高次脳機能障害についての丁寧な解説から始まりました。植田教授は豊富な臨床例をダイナミックかつ情熱的に、実演を交えてご講演され、聴衆（もちろん私も）は瞬く間に引き込まれてしまいました。画像診断をはじめとした科学的な裏付けのあるご説明は、非常に説得力のあるものでした。またご講演の後半は、認知症高齢者の脳の障害によって、様々な高次脳機能障害が引き起こされること、またそれによる生活機能の障害についての解説でした。脳の損傷に伴う障害も様々で、食べものを食べたりという、失語・失認・失行や実物ではない行機能障害などが食事行為に与える影響も具体的に説明を頂きました。



(義歯製作に対して抵抗する認知症患者に関する質問)

そしてこういった高次脳機能障害をお持ちの患者様への効果的な対応方法についても、詳細に言及され、植田教授が本公演のサブタイトルとした「認知症高齢者への食事支援～考え方、応接と手法～」の通り、認知症の方にかかわるものすべてに大変ご示唆を頂けるご講演でした。

ディスカッションにおいては、認知症高齢者の歯科治療拒否とその対応、義歯製作の可否に関する質問があり、植田教授は「自分の義歯が義歯と認識できない症例を例とした解説があり、画一的な基準はつけられないため、現場においては「臨機応変」が重要である」と回答されました。



ディスカッションの題材として、あぜりあ歯科診療所がかかわる施設における食行動観察の動画を2例提示し、聴衆を交えた大変活発なディスカッションとなりました。

